



発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3
TEL / FAX 024-567-5322Web <http://www.nposhalom.net>
Email info@nposhalom.net

発行責任者：大竹静子

飯館村あづまるネット Part3 開催報告

震災から七年三月十一日に開催
インターネット放送局
「飯館村あづまるネット2018」

東日本大震災から丸七年目の二〇一八年三月十一日(日)に飯館村交流センターふれ愛館にて「インターネット放送局」が開催されました。今回で三回目となる本イベントは、飯館村の村民ひとりひとりが主役となり、インターネットを使って情報発信するイベントとなります。

NPO 法人シャロームでは震災以降継続して飯館村への支援を行っています。支援物資の提供から始まり、タブレット、パソコン、携帯電話の活用・普及啓発を目的に仮設住宅でのパソコン教室を実施しながら、パソコンリダーの養成に努めてきました。この継続的な活動が具体化したのがあづまるネットです。

今年三月十一日が日曜日ということもあり、午前十時の開演時から多くのお客様でにぎわいました。ステージでは、ふくしまボンガーズの天竺はじめ、萌ちゃん(メリード)とひとりぼっち秀吉が総

司会で登場しました。観客席はいっぱいで、多くの村民の笑顔がありました。村民のキラオケは、当日の受付もすぐに終了するくらい盛況でした。同じ避難経験を持つ川内町の方や郡山からなど、飯館村外からもたくさんの方が来場し、イベントに積極的に参加されていました。村民と村民を支援してきた皆さんが、この三月十一日に飯館村に集い、大きなイベントが開かれたことは、とても意義のあることでした。

援して頂いているボーカルユニットです。ハラソウさんは去年の夏にシャロームと出会い、その後、路上ライブなどで福島のために募金活動をしてくださっています。その支援金をお持ちになり、村民を代表しいたてパソコンクラブの佐藤(公子)さんに贈呈してくださいました。

ライブでは、感極まったハラソウさんが涙しなかなか歌えなくなるシーンがありました。会場にいた村民も同じく涙涙で、会場がこの災害の大きさを改めて感じる瞬間もありました。シルバートンさんのライブでは美しい歌声で、福島への思いをこめた「まわりの花束を」などが披露されました。さらに、総司会のひとりぼっち秀吉も歌の披露をしてくれました。彼も福島で被災した、同じ被災者のひとりです。「村民と共」にこのイベントに参加したことで大きな物を得た」と感想を語ってくれました。

他にも多くの催しや販売が行われました。仙台市の「ミスタードットマン」さんによるドット絵のバッグ作りワークショップは村民や子どもたちで大盛況でした。ドットマンさんは飯館村の路頭に迷った飼犬の里親として、以前から村に縁があった方です。販売ブースでは、まちなか夢工房やベー(二面へ続く)

韓国の平昌(ピョンチャン)で行われた冬期オリンピック、そしてパラリンピック。極寒の地で行われた冬のスポーツの祭典。冬は寒さの中で、猫と一緒にコタツで丸くなっていたい怠け者を自負している。競技を見ていると、これがスポーツなのかと疑いたくなる。スケートなどは、まるで世界から集合した曲技団のショーである。

人間は、鍛え上げていくことで成長する可能性を誰もが秘めている。可能性を信じてやり続けた結果が多くの成果を生む。一定の競技の頂点を極めた者の姿には謙虚さが溢れている。本人の努力とこれを支え見守ってきた周囲の人間関係、この人間関係の総合力が一人の英雄を作り上げる。

人は無意識の内に比較し差別する。オリンピックとパラリンピックを分けて行う必要があるのかという素朴な疑問が競技を見ると湧いてくる。種目の中に組み込んでいくことで十分可能ないように見える。人間として努力してきた成果を一緒に讃え合う場がオリンピックであること、を思うと、オリンピックに一本化する事で、障がい者への無意識の差別が消えていくことを期待したい。人間としての理解と交流が、違いを認め合える平和な社会を創り出す。それはオリンピックの原点でもあるから。

(T.O)